

指導の形態	自立活動～課題に最後まで取り組む、指先を上手にを使って、字などを書く等～	障がい種等	特別支援学級の知的障がい
-------	--------------------------------------	-------	--------------

### 授業の概要やよさ

1時間の授業中に、児童生徒の学習上・生活上の困難を解決するための指導を複数組み合わせ合わせて取り組んだ事例。

### 児童生徒の様子

- 「絵カード」提示で、自分がすることを理解する。
- 「書く」活動をやりたがらない。
- 鉛筆はうまく持てるが、なぐり書きである。
- 「できん・やって」と言って、すぐ諦める。
- マルとバツは分かっているが、他の線や図形は理解できていない。
- 給食の準備や当番（牛乳とストロー配り）が嫌で、積極的に取り組めない。
- ストローを配る時に、決まった順序はない。目に入った順にストローをトレイに置くことができる。



### 目標

- 【課題1】
- 見通しを持って45分間の時間いっぱい学習することができる。
- 【課題2】
- 鉛筆の練習：丁寧に縦線・横線・斜め線を書いたり、いろいろな図形や線を書いたりすることができる。
- ストローわけ：ストローを並べて容器に入れる等、スムーズに取り組むことができる。

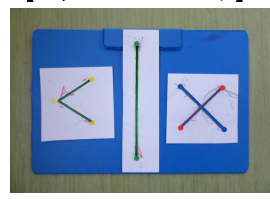
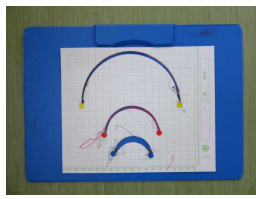
### 支援のポイント

- 【課題1】
- ・椅子に座って机できちんと「勉強」をすることを認識している。
- ・「今日の学習」のスケジュールボードに、課題学習を行う自立活動（45分）のスケジュールを貼り、終わったらカードを取り外す仕組みで行う。
- ・課題数は1つから始め、学習スタイルに慣れると、課題を増やす。  
※絵カードを見て学習内容を確認することができる。



【スケジュールボード】

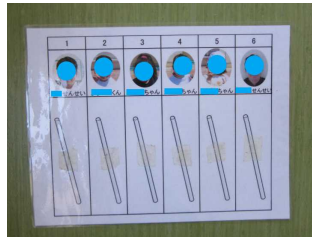
- 【課題2-①：鉛筆の練習】
- ・直線、山、バツ、曲線の溝シートを使って、「上手に書ける」「できた」という成功体験を積み重ねる。
- ・徐々に、アンパンマンやドラえもんなど、溝シートを組み合わせでできるキャラクターを書く。
- ・溝シートで線を書く応用として白紙に自由に書く時間を設定し、教師とのやりとりを楽しみながら認知と操作、コミュニケーションの面から指導を行う。（ひらがなや図形につなげるため、教師が書いた点と点をつなぐ指導をやりとりを楽しみながら縦線は木、横線は道、斜め線はすべり台に見立てて行う。）



【溝シート】

※学習をしたプリントに穴を開けファイルに綴じる作業を、少しずつ一人でさせ、やり遂げることができるように支援する。

- 【課題2-②：ストロー分け】
- ・連なったストローをはずす時や並べたストローを容器に入れる時など、両手を使った活動が、スムーズに行えるように、繰り返し取り組む。
- ・活動に意欲が持てるように、配る人の写真を貼ったシートにストローを配ったり、ストローさしの容器に入れたりする活動を取り入れる。



【配る人の写真を貼ったシート】



※ストローを数える（1～6）指導（算数）も、配慮的に行っている。